

## 【認知症介護実践者研修標準カリキュラム】(2,015 分)

1日目	時間	研修項目	研修内容	講師等
時刻	525分			
9:30~9:45	15分	研修オリエンテーション 認知症介護実践研修のねらい	・研修の目的・目標の明示・目的、目標とカリキュラムの関係の明示 ・研修の機会を主体的、積極的に自己学習の場として活用する意義	認知症介護指導者
9:45~11:45	120分	認知症の人の権利擁護 (意思決定支援と権利擁護)	・認知症の人の歴史(痴呆観)・認知症の人の権利とは何かを理解する ・個人の人権の重要性・権利を擁護する制度等の理解 ・擁護する具体的内容の理解・権利を擁護する実践者としての基本的姿勢・ 事例を示し、様々な社会資源を用いて権利を擁護する演習を行う	認知症介護指導者
11:45~12:45	60分	昼休み		
12:45~14:15	90分	医学的理解	・認知症の原因疾患とそれに伴う障害等の内容及びそれらが個人生活に及ぼす影響 ・自立支援の中での医学の果たす役割の明示 ・疾患別認知症の特徴	医師又は指導者
14:25~15:25	60分	心理的理解	・加齢や老化による心理面の影響と対応・認知症が及ぼす心理面の影響と対応 ・環境が及ぼす心理面の影響と対応・自立支援の中での心理的理解が果たす役割 ・中核症状への対応のあり方	医師又は指導者
15:35~18:35	180分	生活障害としての認知症の理解 (生活の捉え方)	・生活障害としての認知症の理解・個人と認知症との関係の理解 ・生活支援の理解・認知症症状と疾患の関係・重度認知症ケアと終末期ケアを知る	認知症介護指導者
18:45~19:45	60分	振り返りと交流会	・交流会によるネットワークづくり・研修の感想や情報交換	

2日目	時間	研修項目	研修内容	講師等
時刻	530分			
9:00~9:30	30分	研修の自己課題の設定	・研修中の課題の設定・課題を文章として示す	認知症介護指導者
9:40~11:40	120分	生活の質の保障とリスクマネジメント	・認知症が及ぼす事故の危険性の内容・リスクマネジメントの目的と内容 ・個人の生活の質の保障の重要性・家族の了解を含めたリスクマネジメントの方法 ・安全管理と人権擁護の関係の理解	認知症介護指導者
11:40~12:40	60分	昼休み		
12:40~14:10	90分	人的環境と住環境を考える	・人間関係としての人的環境の内容及び生活に与える影響 ・住まいとしての住環境の内容及び生活に与える影響	認知症介護指導者
14:20~15:50	90分	生活環境を考える	・事例を用いた体験的理解・環境への関わり方の具体的な方法を検討 ・家族の位置づけは、家族支援の視点を含め検討 ・認知症の方々の共同生活を営む上での心理的理解	認知症介護指導者
16:00~17:30	90分	地域社会環境を考える (生活環境を考える演習)	・地域社会環境の内容及び生活に与える影響・地域社会環境との関係のとり方 とコミュニケーション技法・他の援助者とのコミュニケーション	認知症介護指導者
17:40~19:10	90分	地域社会の中での生活支援 (生活支援の方法)	・日常的生活支援のあり方・その援助方法、環境調整、地域資源の活用の重要性 ・事例を用いた体験的理解と具体的な方法の検討 ・家族の位置づけは、家族支援の視点も含めること・地域づくり(認知症サポーターの養成、運営推進会議)	認知症介護指導者
19:10~19:30	20分	振り返り	・一日の研修を振り返る	認知症介護指導者 又は事務局

3日目	時間	研修項目	研修内容	講師等
時刻	510分			
9:00~10:30	90分	認知症の人とのコミュニケーション (コミュニケーションの本質と方法)	・認知症の人とのコミュニケーションをとる意義と目的・認知症の人とのコミュニケーション技法(軽度・中程度・重度の人へのコミュニケーション技法) ・事例を用いた具体的な援助展開の方法	認知症介護指導者
10:40~12:10	90分	援助関係を築く演習	・事例を用いた具体的な援助展開の方法の体験的理解	認知症介護指導者
12:10~13:10	60分	昼休み		
13:10~14:10	60分	家族の理解と支援 (家族の理解・高齢者との関係の理解)	・高齢者と家族の関係・認知症が家族内に与える影響・家族支援の方法と効用 ・家族とのコミュニケーション・家族への情報提供のあり方	知識者又は 認知症介護指導者
14:20~15:10	50分	若年性認知症の人の支援	・疾患に対する理解・家族支援・エンパワメントを用いて、本人とともに家族を支える ・社会資源の活用	知識者又は 認知症介護指導者
15:20~18:20	180分	新しい認知症介護の理念の構築	・先進的介護サービス事業の理念の提示(2つ以上の複数であること) ・演習を通して、他の研修生の意見を聴き、自分の介護を振り返る ・認知症の人がその人らしく生きるという権利が擁護される介護理念の再構築 ・理念を実際にどのように活用するか	認知症介護指導者
18:20~19:00	40分	振り返り	・一日の研修を振り返る	認知症介護指導者 又は事務局

4日目 時刻	時間 450分	研修項目	研修内容	講師等
9:00～11:20	140分	認知症の人の理解に基づいた生活のアセスメントと支援	・尊厳ある生活を導き出すアセスメントケアプランの基本的な考え方の理解 ・認知症の特性をアセスメントする ・心身の総合的なアセスメントをする ・なじみの生活の継続と自立支援に向けたアセスメントをする ・ひもときシートとアセスメント	認知症介護指導者
11:20～12:20	60分	昼休み		
12:20～14:50	150分	事例演習	・事例演習による具体的考え方の体験的理解 ・援助方法の展開と体験的理解	認知症介護指導者
15:00～16:40	100分	実習課題の設定	・自己の研修課題と研修の成果に基づいた実習目標の設定	認知症介護指導者
16:40～17:40	60分	振り返り	・この日の振り返りとともに、4日間の講義・演習の振り返りを行う	認知症介護指導者 又は事務局

## 【実践者研修実習カリキュラム】

実 習	時 間	目 的	内 容
実習1:外部実習	1日	他の介護保険事業場への3日間の体験実習を通して、自己の設定した課題を達成し、その成果を得る	・実習課題に沿った実習の展開 ・研修目的に沿っていること
実習2:職場実習	2週間	職場での4週間の実習を通して、自己の設定した課題の達成を目指し、その成果を得る	・実習課題に沿った実習の展開 ・研修目的に沿っていること
実習結果報告まとめ	1日	実習が設定した課題に沿って実施できたかを各自で振り返り、報告し、実習課題がどの程度達成できたかを評価する	・実習課題に沿った実習展開の結果を整理し、報告する ・研修全体の自己評価の実施 ・他研修生の自己評価の確認

## 【認知症対応型サービス事業管理者研修標準カリキュラム】

1日目 時刻	時間	研修項目	研修内容	講師等
16:30～16:40	10分	研修オリエンテーション	・研修の目的、目標の明示 ・自己課題の設定 ・研修の機会を主体的に個々学習の場として活用する意義	認知症介護指導者 又は事務局
16:40～18:10	90分	介護従事者に対する労務管理について	・管理者として、人事・労務管理の重要性を学び、労働基準法に基づいた実務のノウハウを理解する ・職員の人事、労務管理の重要性 ・宿直と夜勤について ・労働時間と休憩について ・労務管理に関する質疑・応答	社会保険労務士
18:10～18:30	20分	振り返り	・この日の振り返りを行う	認知症介護指導者 又は事務局

2日目 時刻	時間	研修項目	研修内容	講師等
9:00～10:30	90分	地域密着サービス基準について	・地域密着サービスの趣旨と指定基準	市町村職員又は指導者
10:40～12:10	90分	地域密着型サービスの取り組み	・事業所からの実践報告を通じ、各事業におけるサービスの提供のあり方を理解する ・事業所からの報告 ・現状、課題と今後の展望	認知症介護指導者
12:10～13:10	60分	昼休み		
13:10～18:40	330分	適切なサービス提供のあり方	・管理者として、介護保険法の趣旨やサービスの意味を理解し、支援等の具体的な場面を通じて、介護の質の向上や総括的な管理運営のあり方を学ぶ ・管理者の役割と業務管理 ・日常生活支援「ケアプランに沿った実践と記録」 ・利用者の権利擁護「尊厳・成年後見・身体拘束・虐待防止法等」 ・リスクマネジメントの実際とその展開 ・サービス評価・情報公表制度等 ・人材育成の基本的考え方とその方法 ・現状と課題、今後の展望	認知症介護指導者
18:40～19:00	20分	振り返り	・研修を通じての振り返り	認知症介護指導者 又は事務局